

# 平成25年度施政方針

## はじめに

平成25年度予算関係議案の審議に先立ち、私の施政方針について申し上げます。

かつてない未曾有の大災害、東日本大震災から早や2年が経とうとしております。今なお、多くの被災者の方々が、厳しい寒さの中、仮設住宅での避難生活を強いられています。被災者のみなさんが以前の生活を取り戻し、明るく活力あるふるさとを取戻すために、震災からの復興に向け、私達にできることに全力で取り組まなければならないと感じております。私たちは、日本人として、災禍の痛みを共有し、同胞としての絆を一層強固なものにしていかなければなりません。本市といたしましても、被災地と直接結び付いた効果のある支援をこれからも続けてまいります。

昨年12月16日の衆議院議員総選挙の結果、政権交代が起こり、現在、日本再生に向けての諸施策が動き出そうとしています。しかしながら、まだ現下の国内経済は、長びくデフレ不況の下で誠に厳しい状況にあり、社会には閉塞感が漂っています。福島原発事故の検証を経てのエネルギー政策、TPP問題、また、少子高齢化が進む中、市民の皆さん一人ひとりが将来にわたって安心して暮らすことのできる社会を実現するための仕組みが必要不可欠であり、国の社会保障と税の一体改革を見据え、十分な議論を尽くすことが求められております。

現在、通常国会において、平成25年度予算案等が審議されておりますが、私共は一日も早い本市経済の回復が図られるよう、国・県の動向を注視しながら、独自の新たな施策を推進し、より効果的な地域再生の舵取りを図らなければいけないと考えております。

私は、選挙に際して、「夢をかたちにチーム新居浜」というスローガンを掲げました。市民の皆様方をはじめ、企業、団体そして行政、議会の皆様と共にふるさとをより良いものにしていこうという気持ちを集約し、市民の笑顔が輝く新居浜市の実現に向けて力を合わせて取り組んでいくこと、目指すべき理想を思い描きその実現に向け、共に歩んでいく「和」を重視したまちづくりを展開していくことを願っております。

論語の中に『温故知新』という有名な言葉があります。私は今回、市長という職に就き、改めて歴史から学ぶということの大切さを感じております。現在の新居浜市の繁栄というものは、多くの先人の汗と涙の結晶であり、そこには多くの経験が蓄積されているものであると再認識いたしております。私は昭和初期に鷺尾<sup>わしお</sup>勘解治<sup>かげじ</sup>氏が提唱された「共存共栄」の理念を決して忘れてはならないと思います。

別子銅山はそれまで無尽蔵と思われていました。しかし、その鉱脈が枯渇するという現実を知り、時あたかも世界大恐慌の真ただ中、まさに企業存亡の時に、利害得失を超えて信義を貫き、私達の新居浜市の後栄策を講じるべく尽力した、鷺尾さんの見識、胆識なしには今の新居浜市の姿はなかったと思えるのです。

昭和初期に新居浜築港、海岸の埋立に代表される産業基盤の整備、昭和通りや星越住宅に代表される都市計画など、社会資本の整備に着手したことはまさに先見の明であり、それらを支える精神的な基盤として、改善会や作務の崇高な精神に支えられた生活協同体的な共感をもって、公共に奉仕する市民意識の昂揚を掲げたことはまさに卓見でありました。新居浜市民は、山根グラウンド、昭和通りは先人の汗の結晶であることを忘れてはならないのです。

「共存共栄」の考えには、「企業は労働者の繁栄、地方の繁栄と共にその利を同じくするものであり、その利をほしいままにして、自分独りが栄えるものではない」という崇高な経営理念が込められておりました。

私は今こそ、鷺尾さんが自らの行動規範として生涯貫いた「円融の教え」を学びたいと思います。「円融」とは「それぞれが、その立場を保ちながら一体であり、互いにとけ合っていて障りのないこと」だそうです。お互いを尊重し、寛容の精神を持つことの大事さを説いておられます。物質的な幸せを追求するだけでなく、人と人のふれあい、絆を大切にすることこそが、平成の時代に合致した「共存共栄」の理念であると思うのです。私は、この先人の教えを大切にし、多くの市民の英知と実践を結集し、平成の共存共栄策を一緒に創り、新居浜市の将来を開拓したいのです。

市長就任の際にも申し上げましたが、私は「三つの再生」を平成25年度の行政運営の柱に掲げてまいりたいと思います。

「経済の再生」、「地域コミュニティの再生」、そして「市役所の再生」です。

まず、第一点目は「経済の再生」であります。

国の経済再生策や地元経済界のご尽力により、新規企業の参入や工場建設などの朗報がある一方、中小の企業経営者からはデフレ基調の中で厳しい経営環境が続いており、新たな経済振興策を求める声が聞こえてまいります。経済の再生に向けての第一歩は、現場で苦勞している経営者の人たちの声から学ぶことであると私は考えております。忌憚のない意見を聞かせていただくことから、行政、企業の相互理解、信頼関係が生まれ、何をなすべきかが見えてくるものと思っております。そのために、住友企業、商工会議所をはじめとする企業経営者とのトップミーティングを定期的を開催するなど、経済界と行政がスクラムを組んで本市経済の再生を着実に推進する体制をつくりたいと考えております。

第二点目は「地域コミュニティの再生」であります。

私は新居浜太鼓祭りに象徴されるように、新居浜市民の結束力は全国にも誇りうるものであると常々感じております。しかしながら、自治会の加入率は7割を切ってしまいました。

自分たちに何ができるかを考え実践してきた先人の意思を私たちは継承し、身近な地域コミュニティの中でできることに取り組んでいただきたいのです。

近い将来に発生が想定される東南海・南海大地震に向けての備えも求められます。いざという時になってから慌てても何もできません。災害時だけでなく、日々の生活においても支援を要する人たちを支える温かい地域の間人関係が求められますし、超高齢化社会といわれる中、老いは誰もが避けて通ることのできない大きな問題として、否応なくやってきます。いくつになっても元気でいられること、そしてよき人間関係の中で生きがいを持って人生を送ることこそが理想の姿であると思えます。その意味でも、私は地域コミュニティこそが生活の基盤であり、みんなが力を合わせてその維持発展を支えていかなければならないと考えております。

第三点目は「市役所の再生」であります。

市役所は文字通り市民にとって役に立つ所でなければなりません。

市役所の再生では、まず「信頼される」市役所を目指します。市民の皆さまが市役所にやってくる時は、何かの問題を抱え、相談にやって来るはずです。その際に、きちんと話を聞き、説明し、解決策を共に見出そうとする姿勢が求められます。市民の皆さまときちんと向き合い、共に考え、思いを共有できる

職員が必要です。市民の要望に必ずしもよい回答はできない場合も、きちんと説明できる能力を身に付けるためにも資質向上を図ってまいります。

また、市民の皆さまと行政との距離を縮めていきたいと考え、市職員が地域コミュニティの活動を支援するための新しい仕組みをつくっていきたいと考えております。そのことによって、職員は地域を学び、真の協働のあり方を体験してもらいたいのです。

そして「挑戦する」市役所です。できない理由を並べたてるのではなく、どうすればできるのかを探求し、新しい事業を開拓していこうとする前向きな職員が求められています。人材なしには、地域主権の時代に生き抜いていくことは決して叶わないと考えております。人は磨かれて初めて輝くものであり、人材登用、研修など様々な機会を活用して、高い志を持った職員が育つ組織文化を構築してまいります。

さて、今年は何子山村と合併して10年という節目の年であり、記念式典やイベントも予定しております。市民の皆様にとって何子山地域の人たちにとって合併という変化はどう受けとめられたのでしょうか。新居浜市としての一体感を醸成し、次の10年に向け、新たな歩みを始める年でもあります。

私は、平成25年度を「再生へのスタートの年」にしたいと思います。「温故知新」、「共存共栄」を胆に銘じ、新居浜市民の幸福を共に高めていくために何ができるかを、チーム新居浜でじっくりと考え、行動に移してまいり所存です。

以上、新年度における市政運営の基本姿勢を申し上げましたが、引き続き、主要施策の概要につきまして、第五次新居浜市長期総合計画に掲げる6つのフィールドごとに、順次ご説明申し上げます。